



近くて遠いトカゲのなかま② モササウルス

爬虫類は私たち哺乳類と同じ、胎児をつつむ羊膜をもち陸上で子供を育てる仲間です。爬虫類のなかでもトカゲの仲間は、約7千種と陸上動物の中では最も種類が多い頼もしい隣人です。しかし、変温動物で冬は苦手なのか日本の在来種はわずかに約30種。身近なようで、なかなかお目にかかれないトカゲのなかまに紙工作で迫ります。

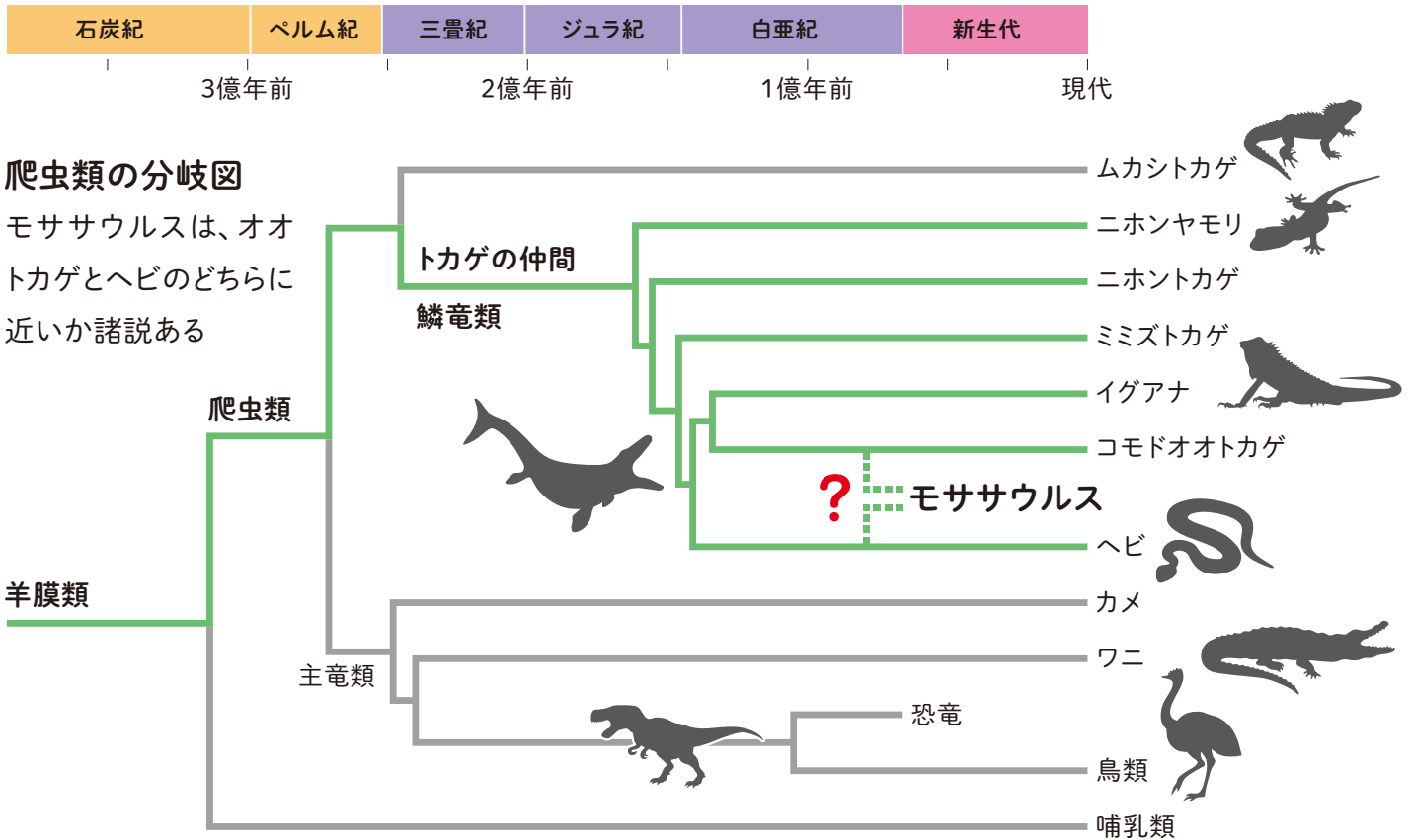
モササウルス類は、約8千万年前の白亜紀に出現し、海に暮らした巨大なトカゲの仲間です。四足の陸上のトカゲが海に進出し、足や尾がヒレ状に変化したと考えられています。化石は大西洋周辺を中心に世界で発見され、大阪や和歌山、北海道でも見つっています。大きなものでは1.5メートルもの顎や鋭い歯をもち当時の海の捕食者の頂点と見られます。さまざまな種の歯を調べると、貝を砕いて食べるもの、ウミガメや大型のイカを狙うもの、小型の魚を漁るのがいて、棲み分けることで多様化したようです。

同じ時代の陸上には恐竜ティラノサウルスがいました。サウルスは「トカゲ」を意味し、鋭い歯と長い尻尾をもつ生きものが収斂進化



して「トカゲ」に代表される爬虫類の時代を築きました。爬虫類の祖先は、約3億年前に私たち哺乳類と分かれ、その後、2億8千万年前頃には、トカゲやヘビの仲間の鱗竜類、ワニやカメと恐竜から鳥に至る主竜類に分かれました。同じサウルスでも、モササウルスとティラノサウルスは異なるのです。

白亜紀最後の海に栄え、恐竜と共に姿を消したモササウルスをつくり、昔の海の多様な生態系に思いをはせましょう。



引用文献: PLoS One.10(3) e0118199 (2015) 協力: 徳川広和



モサウルス

組み立て説明図

記号の説明

- 実線 —— 切りとり線
- 点線 山折り線
- 破線 --- 谷折り線
- * □ のりしろ

作り始める前に

- A4サイズの厚手の紙(厚さ0.23mm前後)に、展開図をプリントします。A3サイズやB4サイズの紙に拡大してプリントすることもできます。
- パーツをていねいに切り抜いた後、鉄筆と定規を使い、折り線にそってまっすぐ線を引くように筋をつけます。
- 組み立てた時に形がゆがまないように、のりづけの前にしっかりと折り曲げておきましょう。
- のりはいったん小皿に出し、つまようじを使って、うすくムラなく塗りましょう。



A

角をぴったり揃えてのりづけしましょう。

B

頭側の片側から順々に、1箇所ずつ乾かしながら丸めるように貼り合わせます。

尻尾側は、真ん中を貼りながら、台形のパーツを閉じます。

ひっくりかえす

最後にお腹ののりしろを閉じます。

C

カーブにあわせて貼ります。

尾ビレの形をぴったり合わせて、縁を貼り合わせます。

最後に底をのりづけします。

D

尾を上下に少しつぶして台形ののりしろを平らし、胴体の台形ののりしろとぴったり合わせて貼り合わせます。

中に差し込む

小さなヒレが後ろ

大きなヒレが前